

虫送り

野々市で古くから伝わる虫送り。稻作地域での伝統行事が、勇壮な太鼓の演奏とともに現在に受け継がれていることが貴重であるとして、令和6年7月1日に市指定無形民俗文化財に指定されました。

文化財企画展「野々市の虫送り」も開催中！ 虫送りの歴史や文化をパネルと資料で紹介します。

期間 10月6日(日)まで
9:00～17:00
(月曜休館)

会場 郷土資料館 NoNo

富奥防災コミュニティセンターロビーでも、8月25日(日)までパネル展を実施しています。

問い合わせ

生涯学習課 ☎ 227-6122

虫送りは、農薬などの農業技術が未発達だった時代に、火と太鼓の乱打によって害虫を追い払ったことに由来する行事です。全国的に見られますが、近代化と共に途絶えた地域も少なくありません。市内では現在、3つの地区で毎年7月に行われています。行事は夕方ごろ始まり、太鼓を打ち鳴らしながらまつを手に町内を練り歩きます。その後、「虫送(り)」の文字をかたどった火縄アーチをくぐり、大きなたき火を囲んで太鼓の演奏を行います。

火を使つた虫の駆除は、古くは紀元前8世紀の中国にその記録が見られます。日本で始まった時期は定かではありませんが、少なくとも江戸時代には全国各地で行われていました。加賀藩でも「河北郡・石川郡は金沢城に近いことから、事前に虫送り実施の届け出をする」という制度が元禄元年（1688年）に始まつたと記録に残っています。虫害は飢饉にもつながるため、害虫駆除法を記した書物『除蝗錄』（江戸時代後半）では虫害を「天下の大患」と表現しています。同書では、油の膜を田んぼに張つて虫の動きを封じる方法を紹介しており、虫送りは前時代的な方法だと述べています。駆除技術の変化と共に、虫送りは害虫駆除よりも豊作の祈念や、村の青年が力を競う季節の行事としての性格が強くなつていきました。

込められた思い
日本ではかしわ手を叩いて神様に祈りますが、音を出して神様を呼ぶのは世界中で日本だけなんです。そして、太鼓は元々、神様を迎える道具です。つまり、虫送りには、太鼓の音で神様を呼び寄せ豊作豊穣や家の繁栄を願うという思いが根底にあります。この思いが隠されていることをもう一度認識すれば、どんなに周りに田んぼが無くなつても虫送りをする意味があるということなんですね。もちろん火は重要ですが、火だけではなく音も大事なので、「太鼓の伝承」をしっかりと行っていただきたいと思います。

INTERVIEW
虫送りの現状と今後
市文化財保護審議会 会長
小林 忠雄さん



3つの虫送り 共通点と特徴

全國的に見られる行事な
がら、地域によって様
態を変える虫送り。特徴的な
「虫送(り)」の文字をかたどつ
た火縄のアーチは、野々市市・
白山市近辺で見られるもので
す。また、野々市市内の虫送
りも全く同じではありません。
3つの虫送りの共通点や特徴
を、今年の写真とともに紹介
します。

その他の写真は
こちら▼



押野

なかみむすび
高皇產靈神社を出発し、青年団が太鼓を担いで叩く後ろをたいまつを持つ子どもが続きます。辻(交差点)などでは太鼓の演舞を行います。押野中央公園に到着すると、「虫送」の火縄のアーチをくぐり、大たいまつの前で盛大な太鼓の乱打を繰り広げます。バチはオオバイ(径約6cm、長さ1m)とコバイ(径約10cm、長さ40~50cm)の2種類があり、他地区に比べて太いのが特徴です。

御経塚や横江(白山市)と、互いの虫送りの日に太鼓を担いで応援に行く「イイ」という文化も残っています。また、次のような伝説が残されています。「昔、前田の殿様が高尾の山に鷹狩りに出かけ、夕暮れごろに平野を見下ろすと村々の虫送りのたいまつの灯りが見えた。ひときわ大きなたいまつを掲げる村があったので『どこの村か?』と家臣に尋ねたところ押野村のたいまつであった」



富奥

14の集落がそれぞれに大たいまつのあるスポーツランドふれあい広場を目指します。各集落が虫送り太鼓を持っていて、叩き方や太鼓の張り方は異なります。大たいまつは特に大きく、太鼓が集まっての競演は圧巻です。また、虫送り後に子ども相撲が行われるのも特徴。以前は大人の相撲大会もあり、県内各地から大勢の力士が集まつたといいます。

虫送りにおいて、稻の害虫を「怨霊の悪さ」とする言い伝えが全国各地にあります。その怨霊として特に多く名が上るのは平家の武将・斎藤別当美盛です。しかし富奥地区では、一向一揆に敗れた加賀守護・富樫政親の怨霊が害虫を招いており、その靈魂を鎮めるために虫送りを行っているという伝説が残っています。

御経塚

佐那武神社を出発し、押野地区と同様に太鼓を持つ青年団にたいまつを持つ子どもの一団が続き、辻などで太鼓の演舞が行われます。御経塚史跡公園に着くと「虫送」の火縄アーチをくぐり、大たいまつ前での太鼓の乱打が行われます。御経塚の太鼓のバチは柳でできており、河川の近くで採取したものを加工して

て使用しています。枝は細長く、少し反りがあるものがしなっていて叩きやすいとされています。押野同様、古くから「イイ」が行われているほか、かつては「ハタオクリ」といって「五穀成就稻虫送り」と書いた旗を道中持つて歩いたといいます。



野々市市の無形民俗文化財



野々市じょんから節



豊年野菜神輿

3 地区の虫送りの指定により、野々市市指定無形民俗文化財は 10 件となりました。

無形とは、建造物や美術品などと異なり「形がない」ものを指します。市では、昔から受け継がれてきた所作や芸態を、無形民俗文化財として指定しています。

野々市じょんから節は、毎年夏に行われるじょんから祭りで盛大に披露されています。また、市内の獅子舞・野菜神輿は、毎年 10 月に秋祭りに合わせて実施されています。

野々市デジタル資料館で、
映像が見られます！



本町一丁目の獅子舞



本町三丁目の獅子舞



栗田の獅子舞



中林の獅子舞



本町四丁目の獅子舞

古い写真や資料を捨てないで！

市教育委員会では、市内の古い写真や資料を収集しています。また、古い家屋や蔵などの解体前に連絡をいただければ、資料の有無の確認もできます。心当たりのある人は情報提供をお願いします。
※買い取りを行うものではありません。

資料の一例

古写真・古文書・
古いチラシ（引き札）・古絵図・
古典籍など



連絡先

生涯学習課
☎ 227-6122
✉ shougai@
city.nonoichi.lg.jp